

論文の内容の要旨

論文題目：山中湖村における集落空間の近代の変容と村落共同体の領域形成に関する研究

- 共同体的特徴を考慮した生活空間の計画論構築に向けて -

(A Study on the Modern Transformation of Settlement Spaces and the Formation of Communal Territories in Yamanakako Village

- Toward the Development of a Theory of Living Space Planning in Consideration of Community Features -)

氏名： 福島 秀哉

本研究は、地域の主体性の再構築と空間計画における協働による、固有性・多様性をもつ空間文化の創出に向けた、社会・空間的な共同体特徴を考慮した計画論構築への基礎的研究として、近世集落を母体に発展した山梨県南都留郡山中湖村の山中区、平野区、長池区の3区と、3区の母体となった山村である山中村、平野村、長池村の3か村を対象事例とし、集落形成から近代化、高度経済成長期における、村落共同体・生業・集落空間に関する歴史的分析、集落空間の変容に関する地理的分析、領域概念を用いた考察から、その社会・空間的な共同体の特徴を明らかにすることを目的とするものである。

地域分析の射程を、対象地の集落形成期にあたる近世にまで広げ、その社会・空間的な共同体の特徴把握の基礎に位置付けた上で、近代化、高度経済成長期における村落共同体と生業、および集落空間の変容の実態を把握した。そこから「生業に関わる社会的なつながりも含めた屋敷地の所有について重要性」に着目した領域形成の概念モデルである「本拠領域」と「生業領域」を提示し、村落共同体と生業、および集落空間の変容過程を社会・空間的な関係性の構造と、それによって支えられる領域の変容として捉えなおした。

結論として、対象事例における共同体的特徴として、山の資源利用を基礎とする「生業に関わる社会的なつながりも含めた屋敷地の所有についての重要性」である本拠領域と、山の利用低下によりその意味が失われた後の、「現代の旧本拠領域における共同体と空間のつながり」への領域の歴史的推移の存在を指摘し、その推移の把握と計画論への展開に関する枠組みを示している。

本研究の特徴は、地域住民の社会的特徴や、生活空間における空間的特徴について、地域分析の射程を現在につながる集落形成期にあたる近世にまで広げ、その歴史的変容過程の把握を行うとともに、その特徴を領域として有機的に結びつけながら計画論への展開を試みた点にある。